



3 月 号  
平成 31 年 3 月 25 日

# 桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

心豊かで  
たくましい荘川っ子  
・考える子  
・思いやりのある子  
・元気な子

## ‘希望の種’ を蒔こう！

校 長 水 口 悟

### 玄鳥至る(清明 初候 つばめ きたる)

海を渡って、つばめが南からやってくるころ。また去年の巣に戻ってくるだろうかと気かけたり。  
(新暦では、およそ四月四日～四月八日ごろ 日本の七十二候を楽しむより)

### ◇ ひとり歩きのできる子の‘宝物’

「1年間を通して、何ができるようになったか」・・・荘川の子どもたちは、自分(学級)が何ができるようになったかを、2月の宝物発表会にて発表します。「今年1年、何をしたか」を答えることさえ難しいことなのに、『何ができるようになったか』を答えることはとても難しいことです。どの子どもたちも、随分と成長をしました。「4月にはできなかったことが、今はできるようになった!」・・・一人一人の宝物です。子どもたちとともに笑ったり泣いたりしながら、1年を通して宝物をつくり上げていく教師の仕事は素晴らしい!教師冥利に尽きます。また、子どもたちとや保護者のみなさんとの距離が近いという荘川小学校のよさは、教師職としても魅力を倍増させています。



### ◇ ‘飛翔若鷹’になる卒業生へ

忘れないでください。心をつなぐことを。

幼い頃から、ずっと一緒にいる仲間。ケンカもするけれど、まるで家族のようにつながっている絆。小さな学校であるかも知れませんが、人に思いを伝え、人と力を合わせ、人を信じ、人と確かなつながりをつくり、生きていくすばらしい姿がありました。

忘れないでください。考えをつなぐことを。

「私は、毎年、新島研修に行く目的がわかりました。それは、帰りたくても帰ることができなかった甚兵衛さんのお墓に荘川のお水をかけ、お参りをするためです」約240年前の出来事を学級みんなで緋き、真実を追究しようとする姿が新島の海に輝いていました。

忘れないでください。めあてをつなぐことを。

運動会間近に流行った、季節外れのインフルエンザ。いつになったら運動会が開催できるのかというピンチをチャンスに変えた中学校へのお手紙。「君たちのせいじゃないよ。合同運動会ができる日を楽しみにしよう」という返事。めあてを持ち、挑戦し続けるたくましい姿が、感動の運動会を実現しました。

忘れないでください。ふるさとをつなぐことを。

奈良・京都への修学旅行。京都・東本願寺、荘川桜二世の前で歌った「桜の下で」。ふるさと荘川を思う地域の方々の強い思い。「荘川桜のように、強く優しく大きくなってください」というお言葉を頂きました。

「ふるさとをもっと大切にしたいと思うようになった」と、先輩がつくった‘ふるさと荘川’を歌い続けてきた姿。その思いは、きっと地域の中にも広がっていくことでしょう。

東日本大震災から8年。当時、東松島市立矢本東小学校の栽培委員会の児童が名付けた希望のひまわりの種は、荘川の地において今尚、咲き続けています。

6年生が卒業のお礼にと地域に出かけたファイナルコンサート、子どもたちが作詞作曲した「ふるさと荘川」、22回目となる新島研修の報告文集、・・・、地域の子どもの姿や成長は、希望の種そのものです。

来年度は、新元号を迎える年度です。新たなスタートをきるにあたり、来年の今頃「何ができるようになったか」と、子どもたちと一緒に自信を持って言える自分でありたいと思います。

保護者・地域のみなさん、1年間ありがとうございました。みなさん一緒になって、いつまでも住み続けたいと思うまちづくりに向けて、希望の種を蒔きましょう!